

まちの話 題

武多都社で子ども相撲

10月5日(日)、国見町竹田津の武多都社^{たけたづ}で秋の大祭が開催され、子ども相撲が行われました。この相撲は、地域の宝である子どもたちにすくすく育てほしいと60年ほど前から行われており、今年は9人が参加。「ないた方が勝ち」の取組に、双方泣かず笑い出す子どもたちに会場も笑い声につつまれました。



ケベス祭り

10月14日(火)の夜、500人以上の観客が見守る中、国見町檜来の岩倉社でケベス祭(国選択無形民俗文化財)が行われました。



この祭は、檜来地区の皆さんが輪番でトウバを選び、トウバになった組はトウバモトを決め祭行事を進めていきます。ケベス祭は、ほかの祭とは違い起源や由来はよくわかりません。

上国崎小学校で最後の運動会

来年4月に国東小学校との統合予定の上国崎小学校で、10月12日(日)、最後の運動会が行われました。上国崎地区体育大会と合同開催されており、全校児童7人が、同地区の皆さんと一緒に玉入れや盆踊りなどの競技に取り組み、最後の運動会の思い出を胸に刻みました。



▲全校児童7人と先生も一緒になってピラミッド▲



▲参加者全員での盆踊り

市医師会拡大講演会

10月21日(火)アストくにさきアストホールで、国東市医師会主催の国東市医師会拡大講演会が行われました。

大分大学医学部地域医療・小児科分野担当の是松聖悟教授が「国東の子ども達が、世界一健康になるために、大人は何をしてあげられるのか?夜間の救急、アレルギーの対策と予防」と題し、「小児医療、小児保健の整備は過疎化・少子化対策として重要である」と市内の小児医療の実態や予防接種、保健事業の重要性について講演しました。

また、講演に先立ち野田侃生市長が、「10月20日で市民病院の小児科医が1名体制となり、大分大学医学部に小児科医の派遣を要望しました。皆さんが、安心して子どもを育てられる環境をつくるため、市民と医師会、行政、市民病院が一緒になって地域医療を守っていききたい」とあいさつしました。



▲講師の是松聖悟教授



▲幼稚園、保育園児の保護者や市民の皆さん約450人が参加